

【研究ノート】青森を題材とした写真絵はがきの発行について

滝本 敦¹⁾

【Research Note】A Study on the issuance of Picture Postcards of Aomori
TAKIMOTO Atsushi

Key words：写真絵はがき、歴史資料、絵はがき製作、絵はがき発行

1. はじめに

本稿では、当館所蔵の写真絵はがきのうち、青森県の風景・風俗等を題材とした戦前期の写真絵はがき²⁾の製作元・発行元について調査した結果を報告する。明治後期になると、地方都市での絵はがきの製作・発行も行われるようになったとされるが、今回の調査は特に県内の発行元について、名称や所在地などを把握することが目的である。

調査は絵はがき本体と絵はがきを封入している包紙に記載されている文字データ、及びマーク等の情報を確認してその結果をまとめるとともに、そのなかから代表的な事例や詳細が判明した点について、解説を掲載した。

2. 絵はがきに記載された製作元・発行元等の情報について

写真絵はがきには製作元や発行元の業者、写真の撮影者（写真師）、ならびに撮影年や発行年などの情報が必ず記載されているわけではない。また、現在のところ、青森県内の発行元の一覧や、各発行元が実際に発行した絵はがきをまとめたリスト等は確認できていない。そのため、情報が記載されている一部の絵はがきを対象として調査するしかないが、得られた情報は具体的な製作元・発行元、所在地や扱った題材の傾向等を知る手がかりになると考えられる。

なお、これらの情報は、絵はがき本体の他、組（セット）の絵はがきをまとめて封入している包紙に記載されている場合もある。実際に当館所蔵の包紙には、組（セット）の枚数、印刷の方法・種類、値段、発行元の住所・電話番号、発行の目的（例：周年記念での発行）等、絵はがきよりも詳細な情報が記載されているものもあり、重要な情報源といえる。以下は、当館所蔵の写真絵はがきの包紙と、その中に封入された絵はがきの例である。

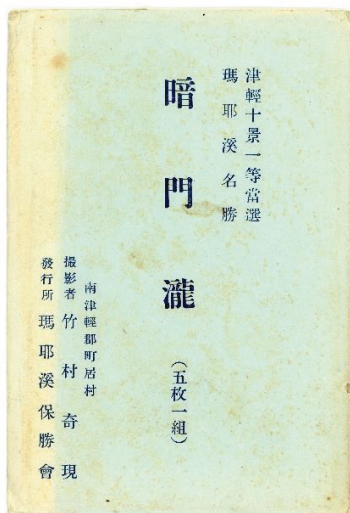


写真1

発行元の「瑪耶溪保勝会」の他、撮影者として「竹村奇現」の名や住所が記載された包紙



写真2

弘前市の観桜会の絵はがきが封入された包紙。タイトル「美観乃櫻花 原色写真版 弘前観桜会」

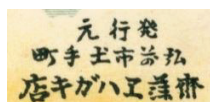


写真3

写真2の包紙の右下を拡大。タイトルの他に発行元をあらわす「発行元 弘前市土手町齋藤エハガキ店」の記載あり（「土」は「土」の異体字）



写真4

写真2の包紙に入っている絵はがき「（弘前観桜会）鷹揚園天守閣ト下条橋附近櫻花（勉強堂発行）」【発行：大正7（1918）年～昭和8（1933）年】

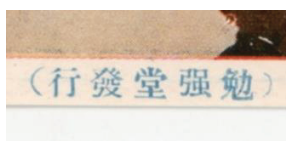


写真5

写真4の発行元記載部分を拡大。「勉強堂」は他に「齋藤エハガキ店」「齋藤勉強堂」「齋藤絵葉書店」などの表記も見られる

1) 青森県立郷土館 主任学芸主査（〒030-0802 青森市本町二丁目8-14）

3. 写真絵はがきに記載された青森県内の発行元一覧

今回調査した結果を表1にまとめた。なお、写真の題材（被写体）も発行元の所在地等と関連がある可能性を踏まえ、合わせて掲載した。

*発行元・撮影者の欄は記載されている表記をそのまま掲載し、所在地が判明する場合は発行元名称に続いて（ ）内に記した。

*題材（被写体）の概要は主なものを掲載し、同じ発行元で複数の題材が確認できる場合はできるだけ多く掲載した。ただし、重複する場合は、重複分をのぞいている。

*同一の発行元で複数の表記がある場合は、備考欄に他の表記を掲載した。

表1 青森県内の発行元一覧

	発行元	撮影者	題材（被写体）の概要	備考
1	青森名畑書店発行（青森市）		青森市街、浅虫温泉名所（湯の島、臨海実験所・水族館）、青函連絡船	他表記：青森名畑商店
2	青森中西写真館製（青森市）		田名部町東宮行啓記念館、青森県立第一中学校開校二十五年記念、弘前公園	
3	柴田写真館製（青森市）		善知鳥神社	他表記：「I. SHIBATA AOMORI JAPAN」
4	青森市停車場前 文明館 野口寫眞所謹製（青森市）		青森市各小学校連合大運動会	
5	大竹写真所製（青森市金澤町） 大竹写真所発行（青森市）		DOLL MESSENGERS OF FRIENDSHIP 記念	
6	丸屋商店発行		青森栈橋、青森県立高等女学校	
7	青森県八甲田山中・酸湯温泉株式会社発行、名古屋市東区神楽町澤田文精社謹製		酸ヶ湯温泉	
8	浅虫清遊館発行（青森市）		浅虫温泉清遊館建物・内部等	
9	小湊白鳥館発行（小湊）		浅所海岸、白鳥	
10	岡田エハガキ店発行（弘前市中土手町）		弘前名所（弘前公園、第五十九銀行）、弘前市街	他表記：岡田商店、岡田エハガキ店
11	齋藤エハガキ店発行（弘前市元寺町市役所向、または土手町）		弘前名所（弘前公園、第五十九銀行、弘前市立図書館）、岩木山赤倉澤	他表記：勉強堂、勉強堂齋藤、齋藤勉強堂、齋藤絵葉書店、弘前齋藤勉強堂。住所2カ所表記あり
12	野原写真館発行		弘前公園	
13	弘前観櫻会発行・東京大日本印刷株式会社			東京大日本印刷株式会社が印刷か
14	発行所 瑪耶溪保勝会（南津軽郡町居村）	竹村奇現	瑪耶溪名勝 暗門瀧	
15	竹内商店発行（西目屋村）		瑪耶溪名勝	
16	工藤写真館発行		藤崎尋常高等小学校	
17	楽養舎発行・白戸写真館作製		藤崎町楽養舎藤本農牧場	
18	北長商店発行（五所川原）		五所川原市街	
19	松山禎祥堂発行（五所川原町）		北津軽郡立（甲種）農学校生徒実習之景	表面に「トンボヤ本店」のマークあり
20	森田村協賛会発行		国有鉄道五所川原陸奥森田間開通記念	
21	黒石小枝商店発行（黒石）		中野紅葉山	
22	山形村盛商店発行（山形村）		山形村板留温泉	
23	大鰐温泉場坂本商店発行		大鰐温泉	名称表記文字列に屋号あり
24		弘前市高橋写真館写	大鰐温泉旅館仙遊館	

	発行元	撮影者	題材（被写体）の概要	備考
25	朝日屋発行		大鰐温泉	
26	北川商店発行（碓ヶ関村）		碓ヶ関温泉	他表記：碓ヶ関北川商店発行
27	深浦村役場発行（深浦村）		深浦の風景	
28	発行所島川榮吉商店		深浦の風景	表面に「東京松聲堂」のマークあり
29	深浦港小野商店発行		深浦の風景	
30	大澤写真館発行		鯉ヶ沢の風景	
31	尾崎精光堂発行		鯉ヶ沢の風景	
32	大戸瀬工藤商店発行		青森県西海岸大戸瀬名勝	
33	亀屋旅館発行		岩崎名勝	
34	青霞堂発行（八戸市）		八戸市街地、蕪島のうみねこ、蕪島神社、湊館鼻、えんぶり	他表記：八戸青霞堂、青霞堂写真館
35	石田家特製（八戸市）		八戸市鮫石田家（旅館）	
36	三本木町杉本支店発行（三本木町）		三本木町風景、十和田湖、三本木農学校創立廿五週年記念、十和田鉄道開通記念	
37	川崎商店発行		三本木町制施行記念祝賀式	
38	三本木町有志		新渡戸傳五十年祭	表面に「東京丸ノ内株式会社青雲堂印行」の表記あり
39	苔米地商店発行		七戸町濱中氏牧場	
40	七戸町山口商店発行（七戸町）		七戸町風景	
41	高橋写真館製		上北郡日間林村役場	
42	斗南半島風景画葉書発行所 山聲社 菊池城南（田名部横町）	立花写真館撮影	田名部町風景	絵はがき本体に「大湊要港部検閲済」の表記あり
43	恐山寺務所発行		恐山	
44	大湊高橋商店発行（大湊）		恐山	
45		出間写真館撮影	田名部市街、恐山、近川農場	
46	長谷商店発行		下風呂温泉	
47	富岡商店発行		川内市街	
48	青森縣史蹟名勝天然記念物調査會発行		県内の史蹟・天然記念物等	

この一覧からは、県内各地に発行元があり、特にその所在地地域と関連する写真絵はがきを発行している傾向がうかがえる。また、発行元の多くは商店等の小売店だが、その他、写真館・公的機関・旅館・各種団体等も見られる。団体の場合は、周年記念等の慶事や活動に関連して発行している場合が多い。絵はがきの製作は、多くは関東をはじめとした大都市の製作者が担ったとされるが、ここで見える県内各地の発行元が製作者から仕入れ、販売していたと考えられる。

4. 絵はがきに見える販売風景

今回の調査のなかで、写真絵はがきに実際の販売の様子が写っている事例も判明した。その事例を紹介する。

(1) 弘前物産陳列館

弘前物産陳列館は弘前商業会議所付属の施設として、大正4（1915）年に開館した。館内には商業会議所の事務所などとともに、多くの物産品を陳列して紹介・販売する陳列室が設けられた。開館翌年の大正5（1916）年に発行され、当時の弘前市の行政、諸産業などの各種情報や業者案内を掲載した書籍「ヒロサキ」（棟方徳衛著）には、実際の館内の様子が記述されている。そこでは、陳列棚に市内各商店の物産品が一堂に並んでいて、ここに来れば地方物産の全てを知ることができると記されている。

写真6の階段前のフロア中央に見えるガラスケース上の表示板に、「中土手町 岡田エハガキ店」の文字が見える（写真7。文字は右書き）。前掲の表1にあるように、岡田エハガキ店は、弘前市やその周辺の風景や名所、風俗などを題材にした絵はがきを数多く発行していた店である。同店発行の絵はがきも、当時の物産品の1つとして出品されていたことをあらわしている。



写真6 「弘前商業会議所附属弘前物産陳列館内部（其一）」
【発行：明治40（1907）年～大正7（1918）年】



写真7 写真6の中央部分を拡大。ケース上の表示板に右書きで
「中土手町 岡田エハガキ店」の文字が見える

(2) 五所川原市喰川町北長商店

写真8の右端に、この絵はがきを発行した北長商店が写っている（喰川町は現在の五所川原市本町のあたり）。店先部分を拡大した写真9では、店名の「北長」の他、「玩具卸」・「婦人小間物化粧品教育玩具学校用品」とともに、入口正面に大きく「繪はがき」の文字の看板がある。実際に絵はがきを販売している店舗の様子が写っている事例である。



写真8 「（五所川原所）喰川町通り（北長商店発行）」
【発行：明治40（1907）年～大正7（1918）年】



写真9
写真8の右端部分を拡大。
中央の入口正面付近に大
きく「繪はがき」の看板が
見える

5. 製作元・発行元が判明するマーク・商標登録等

宛名欄・通信欄がある表面には、県外の製作元・発行元を表すトレードマークや商標登録、業者名が印刷されている場合がある。切手貼付欄、端付近など場所はさまざまで、同じ業者でも複数のマークが確認できるものもある。今回の調査で確認できたものから主なものを取り上げ、参考文献等で業者の詳細情報がわかるものには解説を掲載した。なお、整理にあたり、参考として県外関係の絵はがきも確認し、マークと業者名の特定を行った。

(1) 大正写真工芸所 *トレードマークとしてハトのイラストを使用



写真10
「TRADE MARK」の文字、
中央に「大正」の漢字
を変形したマーク



写真11

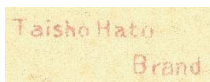


写真12

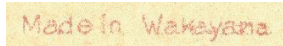


写真11～13は同じ絵はがきの表面に印刷。
11は「TRADE MARK」「TAISHO」、12は「Taisho
Hato Brand」、13は「Made in Wakayama」
の文字



写真14
中央に「TAISHO」
の文字



写真15
包紙に印刷されたもの。
「大正写真工芸所製」
「WAKAYAMA」「JAPAN」
「TAISHO」などの文字
*同様の包紙は複数あり、
裏面に©©、S、©などの
記号あり

(2) トンボヤ本店 *トレードマークとしてトンボのイラストを使用

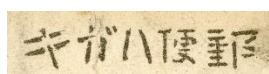


写真16



写真17

写真16～17は同じ絵はがきに印刷（16：表面、17：裏面）。トンボ
をデザインした「キ」の文字。整理番号「18。」あり

- (3) 東京今川橋青雲堂（東京丸ノ内株式会社青雲堂） ＊所在地・名称を複数確認³⁾。



写真 18

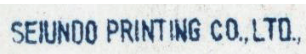


写真 19



写真 20

写真 18～20

写真 18・19 は同じ絵はがきの表面に印刷。20 は異なる数字の場合や数字表記そのものがない場合もある

- (4) 東京図案印刷株式会社⁴⁾



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24

写真 21～24

複数のデザインがあり、切手貼付欄に「TOKYO DESIGN PRINTING CO.」「登録商標」「TRADE MARK」「KANDA TOKYO」の文字、鳥のイラストがある（「千鳥印」の文字や、竿のようなイラストが印刷されている場合もある）

- (5) 仙台市多門通・齋藤写真工芸社



写真 25



写真 26



写真 27

写真 25～27

写真 25～27 は同じ絵はがきの表面に印刷。「TRADE MARK」の文字と鳥のイラスト、「SENDAI SAITO PRINTING CO.」「仙台市多門通・齋藤写真工芸社製」の文字

- (6) 東京松聲堂



写真 28

写真 28

切手貼付欄に「TRADE MARK」「SHOSEIDO」「TOKYO JAPAN」の文字とイラスト

(1) の写真 10～15 の大正写真工芸所は和歌山市に本社を置き、全国各地の絵はがきや国内外の写真帖を製作した会社である。ハトのイラストが特徴であり、コロタイプ印刷の技術が高く、鮮明な写真の印刷が特に優れていたとされる⁵⁾。

(2) の写真 16～17 は横浜市のトンボヤ本店発行の絵はがきである⁶⁾。トンボのイラストをトレードマークとして使用しており、発行時期によりデザインや記載場所が変化している。写真 16 のように表面の「はがき」表記をカタカナにしたうえで、「キ」の文字をトンボのイラストでデザインしたのもその 1 つである。また、シリーズなどに合わせて整理番号を付す特徴もあり、写真 17 はタイトル「青森公園相生の松」（青森市の合浦公園にかつてあった相生の松が題材）の絵はがき裏面に付された「18.」の番号である。他にも同じ組（セット）の中で、順に番号を付している場合もあった（深浦の風景其二～四に対し、2～4 の番号を付記）。

一方、県内業者のマークとして、写真 29 も確認できた。これは大正写真工芸所製作の絵はがきが封入された包紙に印刷されたもので、弘前市の岡田エハガキ店のマークと考えられる。スタンプ印ではなく、印刷されていることから、包紙の製作時に発行元の岡田エハガキ店のマークも印刷したと考えられる。このように、発行元となる商店等の名称・マークなども、製作元に依頼して印字・印刷されていた。



写真 29

6. その他のマーク

- (1) 印画紙

写真絵はがき用の印画紙に印刷して発行している場合もある。写真 30 は青森市の善知鳥神社拝殿の写真絵はがき表面の切手貼付欄部分である。写真の一部に「I. SHIBATA AOMORI JAPAN」の刻印があり、青森市の柴田一奇写真館による印刷・発行と考えられる。同じデザインの印画紙を使用した絵はがきは複数確認でき、他の写真館のスタンプ印が押されているものもあった。

他、写真 31 の印画紙を用いた絵はがきも確認できた。



写真 30



写真 31

(2) 現段階で照合ができていないもの

前項 5 で取り上げたマーク以外にも多種多様なものが確認できたが、残念ながら現段階でははっきりと製作元・発行元と照合できていないものも多い。その中で、特に数が多く確認できたものを掲載する。



写真 32



写真 33



写真 34

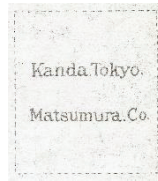


写真 35



写真 36



写真 37



写真 38



写真 39



写真 40



写真 41

7. おわりに

今回の調査により、県内各地の多くの発行元を確認することができた（表 1）。ただし、現在確認できる当館所蔵の写真絵はがきのみを対象とした結果であり、実際には他にも発行元が存在したと考えられる。実際に明治 40 年前後の発行と考えられる「青森しおり写真帖」に掲載された当時の青森市の商工業家の広告には、表 1 に掲載した以外の商店が絵はがきを発行（販売）していたことが推測できるものも見られる。

また、マーク・業者名の情報から県外の製作元が判明したことは、製作から発行（販売）の過程を知る手がかりとなった。例えば、弘前公園の桜を題材にした写真絵はがきを和歌山市の大正写真工芸所が製作し、弘前市の岡田エハガキ店が仕入れて発行するという流れである。このような関係性は、他の製作元と発行元の間でも同様であったと考えられる。

一方、前述の「青森しおり写真帖」では、絵はがき印刷を宣伝する印刷所の広告も見られる。他にも、写真を自ら撮影した写真館による製作の実態を含め、青森県内における絵はがきの製作・発行に関する不明点はまだ多い。その点の調査は今後の課題としたい。

《注》

- 2) 各写真絵はがきの発行年代については、被写体や宛名欄・通信欄がある表面の様式等の変化に基づいた時期区分により推定。各絵はがきの写真にはタイトルと発行時期等を情報として付した。
- 3) 所在地が変わる、また、株式会社化したという可能性はあるが、現在のところ確認できていない。
- 4) 大野絢也・佐藤仁史・梅村卓 2021 年 「補強される植民地の記憶—秦源治「大連・旅順絵葉書コレクション」解説—」（「満州の記憶」第 8 号 2021 年 「満州の記憶」研究会編集委員会）（p. 5～6）
- 5) 太田宏一 2010 年 「大正写真工芸所について」（「和歌山市立博物館研究紀要」第 24 号 2010 年 和歌山市教育委員会）（p. 13～27）
- 6) 生田誠 2022 年 「「トンボヤ」発行の絵葉書にみる、東京風景の変遷」（「郵政博物館研究紀要」第 13 号 2022 年 公益財団法人 通信文化協会 博物館部 郵政博物館資料センター）（p. 27～39）

(主な参考文献)

- ・山口修編 1987 年 「郵便百科年表」 株式会社ぎょうせい
- ・小森孝之 1978 年 「絵葉書 明治・大正・昭和」 株式会社国書刊行会
- ・安西如鳩（銓次郎）・成田彦市共編 1913 年 「改元記念 東奥人名録」 青森交詢社出版部
- ・山崎恒雄 1925 年 「絵画絵葉書類品附属品美術印刷製品仕入大観」 大日本絵葉書月報社
- ・太田宏一 2010 年 「大正写真工芸所について」（「和歌山市立博物館研究紀要」第 24 号 2010 年 和歌山市教育委員会）
- ・生田誠 2022 年 「「トンボヤ」発行の絵葉書にみる、東京風景の変遷」（「郵政博物館研究紀要」第 13 号 2022 年 公益財団法人 通信文化協会 博物館部 郵政博物館資料センター）
- ・大野絢也・佐藤仁史・梅村卓 2021 年 「補強される植民地の記憶—秦源治「大連・旅順絵葉書コレクション」解説—」（「満州の記憶」第 8 号 2021 年 「満州の記憶」研究会編集委員会）
- ・新編弘前市史編纂委員会 2005 年 「新編弘前市史 通史編 4(近・現代 1)」 弘前市企画部企画課